

第三回中間報告

(報告期間 2021 年 2 月 21 日 ~ 2021 年 5 月 21 日)

基本情報

氏名：畑中直人 (国際ロータリー第 2710 地区 2020-2021 年度 地区補助金奨学生)

派遣クラブ：三次ロータリークラブ

カウンセラー：前田 茂様

受入クラブ：Rotary Club of Bordeaux

カウンセラー：Ms. Danièle Faivre

教育機関：ボルドー・モンテーニュ大学

Bordeaux Montaigne University

専攻分野：アフリカダイナミクスに関する学際的研究

Master Interdisciplinary Studies of African Dynamics (MIDAF)

目次

1. 学業面での成果 (インターンシップについて)
2. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり
3. 生活面
4. 今後の課題、目標

1. 学業面での成果（インターンシップについて）

コロナ禍ということもありインターン探しにはかなり苦戦しましたが、2月末にインターンに応募していた中の1つのNGO団体から返事をいただき、インターン生として採用していただきました。3月22日から、CCFD-Terre solidaire（旧Catholic Committee against Hunger and for Development）という団体でインターンシップを行っています。1961年の設立された、フランス初の開発系NGOで、飢餓防止や農業などに関するミッションを約70カ国で行っている大きな団体です。

私が所属しているのは、団体のアフリカ部でルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国が位置する大湖地域のミッション・マネージャーの手伝いをしています。コロナの影響で残念ながら全ての業務がテレワークになっているので、ボルドーに残ってインターンをしています。勤務時間は、9時から17時までで週35時間働いています。ミッション・マネージャーとは平均週1回zoom・teamsを通して、業務の進捗状況を報告したり、研究内容について議論をしたりしています。ミッション・マネージャーは知識・経験が豊富で、親近感がある方です。分からないことがあったらこまめに相談したりしていますし、レポートに対しての添削やコメントをくださったり、テーマに関する興味深い文献を共有してくださるので、インターン業務を問題なく進められています。

インターンの業務の詳細は以下の通りです。

・研究・分析レポートなどの執筆

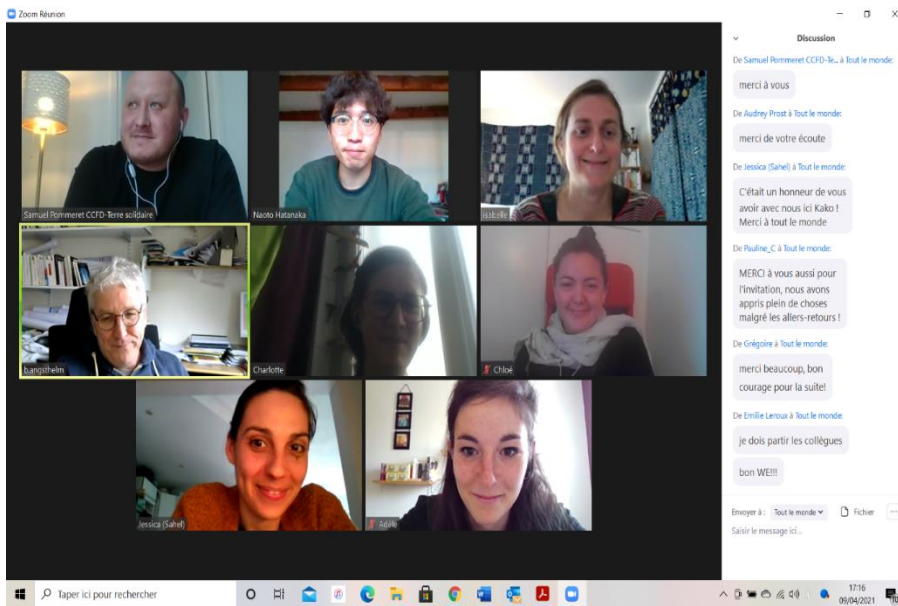
団体と現地のNGOパートナーのための内部会報として、国別プロフィール資料をA4、4ページほどで作成しています。GDP par capitaや人間開発指数などの複数のデータを参照しつつ、途上国の社会経済の開発度合いについて現状分析を行い、その国が抱えている問題や今後の課題についてまとめています。私のインターンでは、土地をめぐる対立や紛争の考察が研究の大きな軸になっているので、レポートでは、農業政策、土地法の改革と、小農に与える影響について焦点を当てています。これまで、ルワンダ共和国とブルンジ共和国についてまとめました。

経済成長率だけでは見えてこない、途上国の現状や課題について多角的な視点から分析する力を身につけるとてもいい機会になっています。膨大な情報力を端的にまとめるのには骨が折れますが、フランス語の文章力を磨くととてもいい練習になっていると思います。

もう一つは、コンゴ民主共和国東部の土地をめぐる対立と紛争についてのレポートです。1990年代から長期化している東部紛争には、土地の問題が大きく関わっています。レポートでは土地、権力、アイデンティティーの3つのキーワードをもとに、長期化している要因、政治的、社会的な背景を探求していく予定です。問題提起、レポートの構成を決めたのは最近のため、これから本格的に執筆に取り組んでいきます。コンゴ民主共和国東部の土地問題については、学部時代の卒業論文でも触れた内容なので、そのときの知識を生かしつつ、さらに深い研究ができたらと思います。

・スタッフ・ミーティングの参加

アフリカ部には10人ほどのスタッフが働いていて、週に一回ほどミーティングを行っています。ミーティングでは、現在進行中のプロジェクトの内容について、今後のプロジェクトやイベントの準備についての話し合いが行われています。コロナの影響で、オフィスで実際に会って仕事をする機会はありませんが、ネットを介して他のスタッフの方と会って意見を聞いたりしていることで、チームとして活動している感覚が湧きます。



アフリカ部のスタッフミーティングでとった写真
左上が、直属の上司
右上がアフリカ部の代表

・ローカルパートナーミーティングの参加

不定期ですが、アフリカの NGO パートナー団体とのミーティングが開催されています。CCFD-terre solidaire との連携強化、現地情勢の共有や議論などを目的に行われています。ある日のミーティングでは3つのパートナー団体と、自国（ブルンジ、ニジェール、マダガスカル）や地域（大湖地域、サヘル地域、南部アフリカ）、あるいはアフリカ大陸全体のビジョンや変化、抱えている問題と課題、そして CCFD-terre solidaire のプロジェクト戦略を発展させる方法についての意見交流会が行われました。

・ローカルパートナーとのアンケート・インタビューの実施

近日中に、コンゴ民主共和国で活動している NGO 団体に土地問題についてのアンケート・インタビューを Zoom を用いて実施する予定です。現地から見た問題の捉え方について、実際に経験したこと、団体の活動で直面している困難などについて伺う予定です。インタビューの結果は、コンゴ民主共和国東部の土地をめぐる対立と紛争についてのレポートの一章に加える予定です。

5月現在コロナの状況が改善しつつあるので、来月6月に、NGOの本部のあるパリに出張ができる予定です。

2. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり

対面での会合やイベントの開催は今現在も行われていませんが、3月20日受け入れクラブのカウンセラーのDanièle Faivreさんに、昼食に招待していただきました。ご自宅は、ワインで有名なマルゴー（2017年コムーヌの合併により、マルゴー＝カントナックに名称変更）にあります。ボルドーからは、車で40分ほど離れており、旦那さんであるChristianさんに車で送迎していただきました。南西部の郷土料理を、美味しい赤ワインと一緒にごちそうになりました。一週間前が私の誕生日だったので、誕生日ケーキもいただきました。

食事中は、フランスに来た理由・学業の内容や、フランスでの暮らしの気付きについて話したり、日本・フランスを比較しながら、社会問題についても議論したりしました。日本へ旅行したことはないお2人ですが、日本の文化や歴史・社会への関心が高いようで質問攻めに逢いました。様々なお話をすることで、お互いの距離が近づいたように思います。

昼食後は、自宅近くにあるシャトーをいくつか案内していただきました。散歩しながら、ブドウ木の最適な栽培条件について、それぞれのシャトーの簡単な歴史を紹介していただきました。シャトー・マルゴーも外からですが拝見することができました。立派な門構えでした。

とても楽しい時間を過ごすことができました。いつでも来るようにおっしゃったので、またお邪魔できたらと思います。



シャトー・マルゴーのフェンスの前
での一枚：真ん中が、Danièle Faivre
さん、右端が Christian さん

3. 生活面

1日あたりの新規感染者増加に伴い、3月中旬からパリ首都圏を含む16県で約1ヶ月ロックダウンが実施されました。ボルドーは対象外だったのですが、地域間の移動の禁止、商業施設の閉鎖などが決定して、かなり自由が制限された暮らしでした。クリスマス前から発令されている夜間外出禁止令によって19時から6時（当初は18-6時）は外出できません。最近は日没時間が夜9時を過ぎており、陽が長くなっていることを生かせないのは大変残念に思っていました。公園を散歩したり、時々友達と会ったりして気分転換するようにしています。

最近ワクチン接種が順調に進んでおり1ヶ月ほど前から、状況が改善しつつあり5月から制限が段階的に解除されていく予定です。今週の水曜日(5/19)からは、飲食店(テラス席のみ)、映画館、美術館などが再開されるので楽しみにしています。

4. 今後の課題、目標

インターンが7月16日まであり、9月に実施予定の卒業論文の口頭試問まであまり時間がないので、限られた時間の中で精一杯頑張ります。今後の進路の方向性を近いうちに決められたらと思っています。また、カウンセラーのDanièle Faivreと交流を続けていき、クラブの他の方々とも直接お会いする機会を作れたらと考えています。